

くまのこだより

社会福祉法人 岡山こども協会

令和5（2024）年6月3日（月）発行

赤磐市桜が丘東 6-6-704

さくらが丘保育園

『こどもの遊びを守りましょう』

こどもにとって「あそび」は心と体健康を保つ上で、とても大切なことだと言えます。私たち大人がこどものあそびを守るためにできることを考えてみました。

1 遊ぶ時間の保障と環境づくり 私たち大人は、こどもの時間泥棒にならないように気をつけなくてはなりません。できるだけ、こどもの都合を汲み取った時間配分にする事。

2 感情のコントロールができるように あそびの中でうまくいかなかったり、友だちと意見がくいちがったりしたとき、「折り合い」をつけられるようこどもの気持ちを受容し、一緒に着地点を見つけていくこと。

3 「やってみよう」が湧いてくるように おとながこどもの世界にいい意味で「首を突っ込む」こと。おとなが「よろこぶ」「おもしろがる」「悔しがる」「びっくりする」など一緒にやって共感すること。

こどもたちが時間を忘れて遊べるようにすることが私たちおとなの役割だと考えます。

花房 由美

お知らせ

○健脚サポーター募集♪

6月14日（金）は健脚活動です。
今回は、全クラス対象に、サポーターを募集します。
希望される方は、担任までお申し出ください。

○歯科検診のご案内

6月20日（木）は歯科検診です。
きれいな歯で見てもらえるように、『すずらんより』をチェックしてみてね。



引っ張ってみよう!

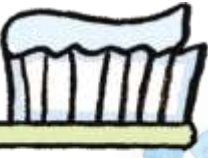


にぎにぎ…

すずらんより

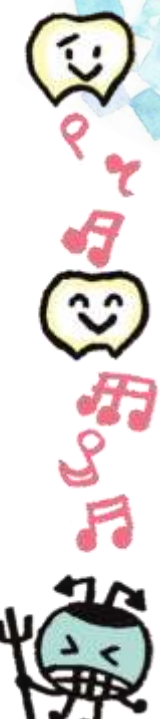


虫歯予防デー



虫歯を予防するためには、やはり歯みがきが一番大切です。お子さまが歯みがきをした後は、保護者の方が仕上げみがきを行い、虫歯を予防しましょう。

また、食事の時はしっかりとかんで食べる習慣を付けると、肥満予防になるだけでなく、唾液がたくさん出ることによって口の中を洗い流し、虫歯を防いでくれる役割があります。



歯みがきのポイント

- ひざの上にこどもの頭を乗せ、寝かせます。
- 鉛筆と同じように歯ブラシを持ち、軽い力でみがきます。
- 奥歯の溝、歯と歯ぐきの間、歯と歯の間、歯の裏は特に丁寧に。
- 前歯は歯ブラシを 90° に、歯と歯ぐきの間は歯ブラシを 45° にあてましょう。

虫歯ゼロの健康な歯を目指して、1本ずつ丁寧にみがきましょう!

『クラスで今！ブームのあそび①』

つき組』

戸外で好きなあそびの時間に「転がしドッチボールしようよ」と、保育者や友だちに声を掛けています。最初は転がるボールをただ見送っている姿もありましたが、回数を重ねるごとに、ボールの避け方や転がし方も上手になっています。「ボールに当たったら輪の外に出る」とルールは伝えていますが、悔しくて涙が出てしまう子もいます。悔しいと思う気持ちも受け止めつつ、友だちと共通のルールを守って遊ぶことの楽しさをしっかり味わってほしいなと思います。



『クラスで今！ブームのあそび②』

はな組』

手作りマラカスを、こどもたちが握れるくらいの太さの入れ物（110mlのペットボトルの空き容器等）に、鈴やビーズを入れて作っています。保育者が歌をうたいながらマラカスを振ると、こどもたちも同じように笑顔でマラカスを振っています。いろいろなうたを楽しんでいますが、特に「おもちゃのチャチャチャ」がこどもたちのお気に入りです。マラカスを振ると同時に身体も揺れノリノリで振っている姿がとってもかわいいです。

いろいろな玩具を使ってこどもたちとあそびたいと思います。



～集団あそび紹介～

『転がしドッチボール』

- 1、白線で大きな円を書きます。
- 2、内野と外野を決め、内野は円の中、外野は円の外に出ます。
- 3、外野は内野に向かってボールを転がします。内野はボールを避け、当たってしまった場合は外野になります。
- 4、内野が一人になるまで続け、残った内野はチャンピオンとなります。



私の好きな絵本

長野県諏訪市にある原田泰治美術館へ行ったとき見つけた一冊。誰かを想う大切さ、純粹に生きる素晴らしさ、生きるとは何かを深く考えさせられました。心に深く響く一冊です。

土屋勇氣





花は咲く



描きたい思いいっぱい

そら組になってついに憧れのマーカ―を使う日がやってきました。こどもが絵を描く姿を見ていると、どの色にしようかなと考える子、友だちの絵を見ながら見様見真似で描く子、絵を力強くダイナミックに描く子、小さく細かに絵を描く子など、どの絵もこどもたちが描く喜びと描く楽しさが溢れています。自由に楽しん書く姿を見ていると、大人が必要以上に関与や干渉せず、自分が描きたい、と思う環境と時間を保障することが大切だなと改めて感じました。描画だけでなく、こどもの“してみたい”こどもたちと一緒にいろいろ工夫しながら、一つでも多く実現できるように、力をつけたいと考えています。

そら組 土屋 勇気

室内のブロックで遊んでいると、よく車を作って走らせています。ある日、車を作った後、駐車場を作っている子がいました。他の子も側へ来て「駐車場作る？」と一緒に作りはじめました。最初作っていた車が入るように、時々駐車場に車を入れながら、大きさを確認している子もあり、想像力を広げたり、工夫したりする姿も見られ、とても嬉しかったです。

こどもたちの考えていることや、表現しようとしていることなどを、聞いたり感じ取ったりしながら見守り、時には保育者も遊びに入り込んで、一緒に世界観を楽しみたいと思っています。

大人にとっては、小さなことのように思えることも、こどもたちにとっては大きな学びであるということを頭に入れながら、日々のあそびを大切にしていきたいと思っています。

ほし組 下山 静菜

いちばんぼし





園庭に出ると、友だちと一緒に虫探しをよくしています。ひとりが虫を捕まえると、他の子たちもほしくて「見せて」「ちょうだい」など、あっという間に周りには友だちだらけ…。「あっちに行ったらまだおるかも」と、友だちを気にかけて、一緒に虫を探すこともあります。こどもたちの会話を側で聞くと、「この虫さんお家がないね」「あっちにお家あるんじゃない?」「何食べるのかな?」「葉っぱいれてみよう」など、友だちとお喋りしながら一つの話で盛り上がる姿もよく見られるようになってきています。

時には保育者に「一緒に探そう」と声を掛ける姿もありますが、保育者が答えを出すのではなく、こどもと一緒に考えたり、こどもたちから出た案を受け止めたりしながら、まずやってみる、ということを中心にしています。虫探しという1つのあそびでも、こどもたちの中で様々な気持ちが育まれてきていると感じています。これからもこどもたちの気づきや発見を大切にしていきたいです。

つき組 竹内 和羅



にじ組は「やってみたい、やってみよう」という気持ちが強くなる年齢です。

園庭のクライミングウォールやジャングルジムに木組みの遊具、公園のすべり台やブランコなど、こどもたちは「やりたい」の気持ちでどんどん挑戦しています。

「危ないからダメ」とやめさせるのではなく、「ぎゅっと手で握ってね」「ゆっくりね」など、安全な使い方を知らせたり、側で見守ったりしながら、こどもたちの「やりたい」を尊重できるようにしています。

上手にいくことばかりではありませんが、少しずつやってみたら「できた」の嬉しさを味わってもらいたいと思います。

にじ組 大森 航輝



ゆきぐみは、見ることに全てに興味津々。「やってみよう」とチャレンジしても失敗することも多いので、できないことがあると怒ったり泣いたりして感情を強く表します。わたしたち保育者はやりたい気持ちを尊重し見守りながらも、「できないことが辛い」こどもたちの気持ちを受け入れ、「こうするとうまくできるよ」を伝えつつ、達成感を味わえる手伝いをしています。

また、友だちとのおもちゃの共有が、まだ難しいので、取り合いになることがよくあります。おもちゃの数をある程度確保することはもちろんですが、こどもたちの輪に入り、保育者も一緒に遊ぶことで、「一緒に遊ぶ楽しさ」を伝えられるように心掛けています。

ゆき組 土屋 裕香

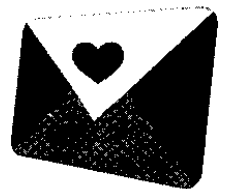


こどもたちがボールに興味を示し、握ったり口に入れたりして感触を試していました。ふと保育者が、枠の外から中のボールをわしゃわしゃとかき混ぜると一緒になって枠の中のボールをかき混ぜ楽しむ姿が見られました。しばらくすると、自分たちで枠の中に入り、投げたり打ち付けたりしました。また、お互いに顔を見合わせてニコッと笑ったり、枠の外側と内側で投げ合いをしたりと、あそびが広がっています。前に向かって投げようとしたボールが後ろに飛んで行くこともあり「あ！後ろ飛んでったね！」と言うと、ケラケラ笑う笑顔がとても可愛かったです。おもちゃの使い方を伝えながら、たくさんの物を触って、試して遊べるよう、環境を整えていきたいです。すぐに「危ないよ」と止めるのではなく、好奇心を満足させつつ、安全にあそべるように見守っています。

はな組 平松 美友紀

全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その2 子ども「遊び」を守りましょ

赤ちゃんの行動に、自分の手やものを口に入れる行為があります。それは、赤ちゃんにとって遊びの一つと考えられています。その「遊び」は、赤ちゃんが生きていくうえでたくさん感覚を学ぶ大切な行為となります。

「遊び」という行為は、年齢を重ねるごとに一人遊びから集団の遊びへ変化していきます。例えば、雪が降った時に、雪を一生懸命に手に載せようとすると手に触れた瞬間に溶けていくでしょう。不思議に感じて、何度も雪を手に載せることを繰り返していくと楽しくなる。その後、まわりの友だちにも不思議さの共感を求めることで「遊び」が発展していきます。

このように乳幼児期に経験したすべての「遊び」は、「遊びの芽ばえ」から「自覚的な学び」へとつながる大切なものなのです。

現在の私たち大人は、テレビやポータブル機器で子どもたちに動画などを観せることで、子どもたちの成長よりも、おとなしくなり手が

からなくなることを優先しがちになっているように感じます。もちろん子どもたちに動画等を観せることで新しい喜びを感じ、そこで学ぶことも多くあると思います。しかし、乳幼児期は五感が極めて発達する時期です。動き回って実



際にものに触れたり、匂いを嗅いだり、音を聴いたりすることを優先して、大切にしてほしいと思います。

遊んで服を汚してしまったり、思う通りにならずに泣いてしまったり、少しケガをしたりと子育て中は大変なことの連続だと思えます。けれども、子どもたちの「やってみたい」を大切にすることが、子どもたちの将来の生きていく力に必ずつながります。

おままごと、電車遊びも、子ども自身の意思で好きな遊びを創作し没頭する。それは、大人が必要以上に関与や干渉すべきことではなく、ただ遊びの機会を保障することが大事なことです。何をするのか、誰とどうやって遊ぶのかは、子ども自身が考えます。「遊び」の中では子どもたちの道徳心さえも育っていくものだと思います。

今も、これから先も、子どもたちに実際に触れるものや見えるもの、子どもたちが感じるすべてのものが、子どもたちの未来をつくります。そのために私たちは、子どもの「遊び」を守らなければならないし、守ることが大切だと思います。

職員紹介 vol.2

一年間よろしくお願いします



子育て支援センター



ゆきぐみ



新しい職員です

給食室



保育補助員

